

週日の説教

金 大烈 神父 2011年5月6日(金)

《あなたに全てをお任せします》

— ミサ前に —

皆様、今日は癒しのミサです。いつも申し上げていることですが、一番楽な姿勢を取って下さい。心の中に不安とか、憎しみとか、そういうものがあってはいけません。余計なことを考えないで下さい。横に座っている人をも意識しないで下さい。心をうるさくしてはいけません。心を空っぽにしてください。そして自分の強い意志で「この心を開けておきます」、私はただ「あなたの御手を待ちます」という気持ちでこのミサに与りましょう。さあ、集中して下さい。

今日の福音(ヨハネ 6・1-15)は、男の人だけ、大人の男の人だけ 5000 人を食べさせた有名なところが紹介されています。そして、フィリポを試みるために「この人たちに食べさせるためには、どうすればいいか」とイエス様がこのように質問したという話です。

私達の論理とか考え、今までの知識、今までの経験としてはこの話はありません。しかし、私達はあり得ないことでも、自分に起こってほしいと思う時が必ずあります。例えば重い病気、例えば愛する者が死んでしまう、そういう怖さに囲まれた時は「イエス様、どうかして下さい」という気持ちになります。今まで私達が学んできたこと、経験したことでは理解出来ないことだからこそ、「あなたの限りない力によって救ってください。」という気持ちになる時があります。そういう気持ちになったらその心をあれこれ考えずに、子供のようにそのまま神様に委ねて下さい。「ああ、これは出来ないのだ、これは子供っぽい思いだ」と考えないで下さい。神様の目で見たら、どんな博士でも博識者でも、皆子供です。何も知らない子供です。だから私達は子供のようであってははいけません。それが何よりも必要なことです。

イエス様にいつも叱られた律法学者やファリサイ派の人々は、いつも自分の頭に誇りを持っていた者達です。人間の前では傲慢さを見せてしまっても、神様の御前ではその傲慢さを捨てて下さい。自分が全部神様を理解しようという考えではなく、理解してもらいたいという心で、いつも自分のことを考えて下さい。なぜ「神様はこのように望んでいるよ」と、他人に教えようとするのでしょうか。これも本当に大きな罪かも知れません。イエス様が何回も、もどかしい心を持ちながら非難した、ファリサイ派の人々とか律法学者の一番大きな罪はそういうことでしょう。いつも全て分かっているふりをしながら人々に教える。教えることにとどまらず、彼らはなぜ人々を責めるのでしょうか。

さあ皆様、この福音を通して私達が考えなければならないことは、少なくとも神様の御前では「私は何も分かりません。何も出来ません。あなたに全てを任せます。」という心が何よりも必要だと思えます。やはり私達は弱いです。今日の福音の最後にこのように書いてあります。イエス様のその行い

を見て群衆は、彼を王に立てようとした。それが分かってイエス様は一人で山に退かれた。

私達は人々が自分を認めてくれなかったら、辛い人生を歩むかも知れません。私も信者の皆様が認めてくれなかったら、やる気を全部失ってしまうでしょう。信者の方が信じてくれなかったら、本当に嫌な気持ちになると思います。信者が誤解して自分かってに考えてしまうと、どんなにいいことしようとしても信者の方が受け入れてくれなかったら、これは悲しいことです。しかし私は、信者の皆様が私のことを信じてくれるだろうと心で認めています。だからまた新しいことをやる気になります。

イエス様もそうだったのでしょ。人間の体を持って色々なことを行って人々が聞いてくれたら嬉しい、そうでなければ悲しい。しかしイエス様は、最後の識別ははっきりなさいました。退くその時を分かっていた。

私達も色々な面で認めてもらいたいそういう気持ちが沢山あると思います。しかし忘れないで下さい。3歳の子供も80歳のおじさんを判断します。このおじさんはいいおじさんだ。このおじさんは悪い、意地悪いおじさんだと3歳の子供もすぐ口にします。私達はこの世の中でしょうがなくて判断されます。自分が正しくても正しくなくても、全ての口は全部違います。それに惑わされないで下さい。そういう意味で私達は弱虫です。しょうがなくて神様にすべてのことを任せますという強い気持ちがあります。

「ああ、あの人、なぜ私をこのような目で見ているのか」と、気にしないで下さい。傷を受けないで下さい。もっと客観的に、あの人なぜこのような視線で私を見ているのかと思う時は、人のことを意識せず自分のことを意識して下さい。意識して反省して下さい。こういうこともあるのだ、このようにも見られるのだと考えて下さい。一つ一つ全部気にして、自分の身にしようとするれば倒れてしまいます。死にます。このようなことで悩んでいる人々がいることを意識しながら、私達も私の一言によって悩む人がないように願って下さい。それも恵だと思えます。

さあ、皆様これから癒しの秘跡を授けます。先ほど申し上げたように本当に気持ちを楽しんで下さい。神様の御前で「赤ちゃんのように何の力もありません。任せます。お任せしますのでどうか救って下さい。」という、ある意味で子供っぽい願いを持ちながらこの秘跡に与りましょう。

ありがとうございました。